



安全データシート

1. 化学品及び会社情報

製品名	核酸再溶解薬 SR-9050
会社名	倉敷紡績株式会社
住所	〒572-0823 大阪府寝屋川市下木田町14-30 クラボウ先進技術センター2F
担当部門	バイオメディカル部
電話番号	072-820-3079
ファックス番号	072-820-3095
推奨用途及び 使用上の制限	植物 DNA 分離用試薬キット の核酸再溶解試薬
整理番号	SDS_SR-9050_02J

2. 危険有害性の要約

GHS分類

絵表示またはシンボル —

注意喚起語 —

危険有害性情報 —

健康に対する有害性	急性毒性（経口）	—
	急性毒性（経皮）	—
	急性毒性（吸入：ガス）	—
	急性毒性（吸入：蒸気）	—
	急性毒性（吸入：粉塵、ミスト）	—
	皮膚腐食性及び刺激性	区分外
	眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	区分外
	呼吸器感作性	—
	皮膚感作性	—
	生殖細胞変異原性	—
	発がん性	—
	生殖毒性	—
	標的臓器/全身毒性（単回ばく露）	—
	標的臓器/全身毒性（反復ばく露）	—
環境に対する有毒性	吸引性呼吸器有害性	—
	水生環境有毒性（急性）	—
	水生環境有害性（慢性）	—

*危険有害性の大きさ：区分は数字の小さいほど危険性／有害性が高い。
供給時点では、物質の有害性はありません。

3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別

化学物質（水溶液）

成分及び含有量	官報公示整理番号			
	CAS番号	化審法	安衛法	含有量（%）
水	7732-18-5	———		85 - 90

塩化ナトリウム 7647-14-5 1-236 (1)-236 10 - 15.0

化学式 H2O (7732-18-5), NaCl (7647-14-5)

※ 原則として1%以上含有する成分を記載しています。

注： 化学物質名称の後の【 】の中に以下の情報を記載しています。（記載のない場合は非該当です。）

「PRTR 特1」は、化学物質管理促進法 特定第一種指定化学物質

「PRTR 1」は同法 第一種指定化学物質

「PRTR 2」は同法 第二種指定化学物質

「安衛通知」は労働安全衛生法の通知対象物を指します。

なお、化学物質管理促進法に該当する物質の場合、同法別表中の政令番号を併記しています。

4. 応急措置

吸入した場合	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	皮膚を流水/シャワーで洗うこと。 刺激が強まったり続く場合には医師の手当てを受ける。
眼に入った場合	水で洗う。 刺激が強まったり続く場合には医師の手当てを受ける。
飲み込んだ場合	不快感が続く場合は医師の診察を受ける。
応急措置をする者の保護	救助者は、状況に応じて適切な保護具を着用する。

5. 火災時の措置

消火剤	初期消火には炭酸ガス、粉末消火器、泡消火器等を使用する。
使ってはならない消火剤	なし
火災時の措置に関する	なし
特有の危険有害性	
特有の消火方法	消火作業は、可能な限り風上から行う。 漏出した物質や消火用水等が、河川等に排出されないように配慮する。 関係者以外は速やかに安全な場所に退去させる。
消火を行う者の保護	消火作業では、適切な保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	作業の際には適切な保護具を着用する。（「8. ばく露防止及び保護措置」の項 参照）
環境に対する注意事項	薬品が河川等に排出されないように注意する。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	漏洩した薬品を適切な方法で回収したのち、漏洩箇所を大量の水で洗い流す。
二次災害の防止策	付近の着火源となるものを速やかに取り除き消火剤を準備する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策	皮膚、眼、そして衣服との接触を避ける。 取り扱った後、手を洗うこと。
(局所排気・全体換気)	適切な換気がされている場合のみ使用する。
注意事項	「8. ばく露防止及び保護措置」の項 参照
安全取扱い注意事項	「10. 安定性及び反応性」の項 参照
保管	
適切な保管条件	日光から遮断すること。 容器を密栓しておくこと。
安全な容器包装材料	十分な強度を有するプラスチック容器を使用する。

8. ばく露防止及び保護措置

設備対策	換気を十分に行う。 近くに水道および洗眼設備を設置する。
保護具	
呼吸用保護具	適切な呼吸用保護具を着用する。
手の保護具	適切な手袋を着用する。
眼の保護具	眼の保護具を使用する。 飛散のリスクがある場合はフェースシールドを着用する。

皮膚及び身体の保護具 適切な保護衣を着用する。
適切な衛生対策 適切な産業衛生および安全対策のもとに取り扱う。

9. 物理的及び化学的性質

外観

物理的状态	水溶液
色	無色透明
臭い	無臭
臭いのしきい(閾)値	データなし
pH	ほぼ中性
融点・凝固点	データなし
沸点、初留点と沸騰範囲	データなし
引火点	引火性はない
蒸発速度	データなし
燃焼又は爆発範囲の上限・下限	データなし
蒸気圧	データなし
蒸気密度	データなし
比重(相対密度)	データなし
溶解度(対水)	易溶
n-オクタノール／水分配係数	データなし
自然発火温度	自然発火はしない
分解温度	データなし
粘度	水と同等

10. 安定性及び反応性

化学的安定性	予期される通常の保管及び取扱いの条件において安定と考えられます。
危険有害反応可能性	酸化剤と接触すると反応することがある。
避けるべき条件	凍結。 直射日光、熱、混植危険物質との接触。
混触危険物質	強酸化剤
危険有害な分解生成物	一酸化炭素、炭酸ガス 塩素/塩化水素。

11. 有害性情報

	急性 経口 LD50 マウス 4000 mg/kg (塩化ナトリウムとして) ラット 3000 mg/kg
皮膚腐食性及び刺激性	皮膚を刺激する場合がある。
眼に対する重篤な損傷性 又は眼刺激性	眼を刺激する場合がある。
発がん性	IARC (国際がん研究機関) のランク [1;2A;2B] 物質の有無: 該当物質なし
生殖毒性	情報なし
特定標的臓器毒性、単回ばく露	情報なし
特定標的臓器毒性、反復ばく露	情報なし
吸入性呼吸器有害性	情報なし

12. 環境影響情報

生体毒性	情報なし
残留性・分解性	情報なし
生体蓄積性	情報なし
土壌中の移動性	情報なし
他の有害影響	情報なし

13. 廃棄上の注意

中和法：多量の水で希釈した後、pHを中性に調整して下水に流す。ただし、周辺環境や生態系に対して無害かつ安全に処理するためには十分な設備及び知識が備わっていなければならない。自社で排水処理装置を所有していない場合は、全量回収の上産業廃棄物処分業の許可を受けた業者に、産業廃棄物管理票(マニフェスト)を添えて、処理を委託する。 廃棄時に該当する法規【水質汚濁防止法：生活環境項目、下水道法：下水の排除の制限】

14. 輸送上の注意

国際規制 航空輸送はIATA規則の規定及び海上輸送はIMDGの規則に従う。

国連番号 —

国連分類 —

容器等級 —

国内規制 陸上輸送：消防法、労働安全衛生法等に定められている運送方法に従う。

海上輸送：船舶安全法に定められている運送方法に従う。

航空輸送：航空法に定められている運送方法に従う。

——— 海上輸送もしくは航空輸送を行う場合は以下の情報を輸送会社にお渡し下さい。 ———

IMDG

Not regulated as dangerous goods.

IATA

Not regulated as dangerous goods.

15. 適用法令

化審法

第一種 特定化学物質: 該当しない

第二種 特定化学物質: 該当しない

監視化学物質 : 該当しない

優先評価化学物質 : 該当しない

労働安全衛生法

危険性物質 引火性 該当しない

危険性物質 引火性ガス 該当しない

危険性物質 酸化性 該当しない

危険性物質 爆発性 該当しない

危険性物質 発火性 該当しない

有害性物質 発がん性 該当しない

特化則 第一類: 該当しない

特化則 第二類: 該当しない

特化則 第三類: 該当しない

有機則 第一類: 該当しない

有機則 第二類: 該当しない

有機則 第三類: 該当しない

通知対象物質: 該当しない

表示対象物質: 該当しない

その他: 該当しない

毒物及び劇物取締法

法 特定毒物: 該当しない

施行令 特定毒物: 該当しない

法 毒物: 該当しない

施行令 毒物: 該当しない

法 劇物: 該当しない

施行令 劇物: 該当しない

施行令32条2 興奮、幻覚又は麻酔の作用を有する物:	該当しない
施行令32条3 発火性又は爆発性のある劇物:	該当しない
毒物除外:	該当しない
劇物除外:	該当しない
施行令 製剤:	
消防法	
第1類 酸化性固体:	該当しない
第2類 可燃性固体:	該当しない
第3類 自然発火性物質及び禁水性物質:	該当しない
第4類 引火性液体:	該当しない
第5類 自己反応性物質:	該当しない
第6類 酸化性液体:	該当しない
指定可燃物:	該当しない
貯蔵量記録:	該当しない
化学物質管理促進法 (PRTR法)	
特定第一種指定物質	該当しない
クラス1指定物質:	該当しない
クラス2指定物質:	該当しない
船舶安全法	該当しない
航空法	該当しない
海洋汚染防止法	該当しない
高圧ガス保安法	該当しない
火薬類取締法	該当しない

16. その他の情報

記載内容は現時点で入手できた情報に基づいて作成しておりますが、記載データや評価について完全性を保証するものではありません。危険・有害性の評価は必ずしも充分ではないので、取り扱いには十分注意して下さい。注意事項は当製品についての通常の取り扱いを対象にしたものであって、それ以外については、ご使用者の責任において安全対策を実施の上お取り扱い願います。

本SDSは、JIS Z7253:2012に基づく日本化学工業協会のSDS作成指針に従って作成したものです。

尚、弊社ホームページ(<https://www.kurabo.co.jp/bio>)に最新版の安全データシートを掲載しています。

作成部門: 倉敷紡績(株) バイオメディカル部